

海外燃料事情

米 國

瓦斯事業の發達

American Gas Association の調査に依れば一九二九年に於ける瓦斯消費量は一九二八年に比し八・一%の増加にして合計五三五、〇〇〇百萬立方呎に達せり、其内譯次の如し（單位百萬立方呎）

家庭用	三四〇、〇〇〇
工業用	一六五、〇〇〇
煖房用	二七、〇〇〇
其他	三、〇〇〇

前年度に比し著しきは煖房用消費量の増加にして其割合五〇%に達し、工業用として一二%の増加を見たり

(Amer. Gas Assoc. Monthly, 1933, 5) (新村)

スタンダード石油會社のIGベンチン裝置

ニュー、デャーシー、スタンダード石油會社は建設中のIGベンチン裝置は本年一月より運轉の豫定なりしも其後進捗はかゝしからざるを以て本年四月中旬以前には運轉開始不可能なりと豫定せらる

(Frédér. n. Trer, 6, 1930, 97) (伴)

エストニア

鐵道の重油機關車化

エストニアに於ては數年來の試用結果の良好なるに鑑み近く旅客列車及入替用に重油機關車を採用するに決し尙之が爲に全鐵道用として必要なる年額五〇、〇〇〇噸の重油の供給を國產頁岩油に仰ぐ計劃なるが現在同國公私の該油産額は一〇、〇〇〇噸に過ぎざるを以て此の計劃實施の爲には二三年間に其産額を五倍に増加するを要す

(Brenn. Chem., 11, 1930, 39) (田代)

海外燃料事情

佛 蘭 西

一九二九年に於ける石炭生産額 一九二九年及一九二八年に於ける佛國の石炭等の生産額次表の如し（單位噸）

		一九二九年	一九二八年
石炭	國内	五四、九二一、八五〇	五二、四二九、〇〇〇
	ザール地方	一三、五七九、三四八	一三、一〇七、〇〇〇
	骸炭	四、七八一、一六九	四、三九九、九三二
	煉炭	四、六三四、八六六	四、〇六三、八三八
獨逸		(Coll. Guard., 140, 1933, 653) (石橋)	

一九二八年に於けるタール蒸溜工業 一九二八年獨逸に於ける褐炭タール蒸溜工業は前年に比し其の數量増加したれ共其の價格は却て減少せり、今本工業の大勢を表示すれば次の如し

企業者數	一七
從業員	一、八六二人
給與其他原料(褐炭タール等)	一、八六二人
半成品	一八八、八三一噸
製品合計	一四、六四一
内 譯	一八、九二、〇〇〇
半製品	一七、七五四
瓦斯油、燃料油、輕油	二八、七七八、〇〇〇
パラフィン油等	四、六五三
機械油	五四一、〇〇〇
揮發油	一一五、一六一
石蠟	一五、五九六、〇〇〇
其他(クレオソート油)	八三八
	七、五九〇
	二、〇四一、〇〇〇
	一七、四九四
	八、六五〇、〇〇〇

昭和五年四月

海外燃料事情

ビッチ等

二六、〇一八 一、七六二、〇〇〇

蒸溜に供したる原料タール中大部分は褐炭タールにして頁岩又は泥炭タールは極めて僅少なり、尙褐炭タールは大部分乾餾に依りて生成せられたるものにして發生爐よりのものも少量にあり、而して約六%は輸入に依るものなり

次に石炭タール蒸溜工業は一九二七年に比して其の企業者数を減じ一九二八年に於ては其の數一三四にして其の三分の二はプロシヤにあり

一九二八年に於ける石炭タール蒸溜工業

企業者數 一三四

從業員 三、五〇八

給與其他 九、二二四、〇〇〇マート

原料タール 一、四九八、六四六噸 九三、六二二、〇〇〇

内譯

骸炭タール 一、二三四、八八六 七三、七七七、〇〇〇

瓦斯タール 二五五、八四〇 一九、一九九、〇〇〇

水性瓦斯タール 一、六三四 一〇六、〇〇〇

油瓦斯タール 五、六〇〇 四八八、〇〇〇

低温タール 六八六 五二、〇〇〇

半製品合計 一一四、一二七 一七、八四五、〇〇〇

内譯

粗ベンゾール 三六、九五二 八、一九〇、〇〇〇

輕油 八、四四九 九四三、〇〇〇

重油 三七、二四六 五、〇五四、〇〇〇

粗ナフタリン及 一八、二三九 一、六五六、〇〇〇

アンスラセン 一、六一九 七八八、〇〇〇

粗石炭酸 一〇一 二九、〇〇〇

粗ビリデイン

其他 一一、五二一 一、一八五、〇〇〇

瓦斯液 三八四 一三九、〇〇〇

生成品 六九一、三四六 四三、五九〇、〇〇〇

ビッチ 二四三、九〇一 二四、二一一、〇〇〇

タール製品 四三一、九三一 五三、六六二、〇〇〇

重油 四九、〇五八 七、一〇八、〇〇〇

ナフタリン 一二、三八九 一、九六〇、〇〇〇

アンスラセン 六九四 七五五、〇〇〇

ビリデイン 三、八五八 四、〇二四、〇〇〇

石炭酸(結晶) 八、一四〇 四、三二四、〇〇〇

クレゾール 一、五八二 三九二、〇〇〇

粗石炭酸 一、三七五 一、六六四、〇〇〇

オルン及メタクレゾール 三〇、七五〇 九、一三六、〇〇〇

ベンゾール 二〇、一七三 六、二三八、〇〇〇

内 自動車用 二、〇三四 七、七五、〇〇〇

トルオール 七、二八〇 一、八六九、〇〇〇

キシロール 二、五三〇 八五三、〇〇〇

クマロン樹脂 二七、九七四 二、九九二、〇〇〇

其他 一〇、六九〇 八五、〇〇〇

アムモニア水 一、八二〇 一九六、〇〇〇

硫黄 六九九 一二四、〇〇〇

鹽化アムモニア

尙石炭タール蒸溜工業の概況を地方別に示せば次の如し

地方別 年次 企業數 從業員 給與 原料 製品

全獨逸 一九二六 一四〇 三、五四九 八、〇四八、〇〇〇 九、二二七、〇〇〇 一、五七、七一九、〇〇〇

一九二七 一四〇 三、五四九 八、〇四八、〇〇〇 九、二二七、〇〇〇 一、五七、七一九、〇〇〇

		内		譯	
プロシヤ	一九二八	八七	三、〇七三	八、〇八〇、〇〇〇	九六、〇二三、〇〇〇
	一九二七	九四	二、九五六	七、三七三、〇〇〇	一二五、四四〇、〇〇〇
	一九二六	九四	三、一五四	七、二四、〇〇〇	八一、三四、〇〇〇
エル ン イ	一九二八	一一	一〇三	二六、〇〇〇	四、一六二、〇〇〇
	一九二七	一一	一三八	三六、〇〇〇	四、一五三、〇〇〇
	一九二六	一一	九六	二四六、〇〇〇	三、六六、〇〇〇
ザクゼン	一九二八	一一	一三三	三三〇、〇〇〇	三、二五五、〇〇〇
	一九二七	一二	九〇	二四、〇〇〇	四、〇八八、〇〇〇
	一九二七	一〇	九三	二〇一、〇〇〇	三、一四三、〇〇〇
バーデン	一九二八	五	八八	二七〇、〇〇〇	三、四六三、〇〇〇
	一九二七	六	一〇一	二四六、〇〇〇	三、九二〇、〇〇〇
	一九二六	六	一〇九	二五三、〇〇〇	三、一二六、〇〇〇

(Petroleum, 26, 1930, 240-43)

(俵)

(Petroleum, 26, 1930, 240-43) (伴)

(件)

骸炭爐瓦斯遠距離輸送 一九二六年ルール地方の炭坑業者等を以て組織せる Rubergs A. G. は石炭の化學的利用（石炭の液化、低溫乾餾、炭粉燃燒、骸炭爐瓦斯よりアムモニアの合成、瓦斯の遠距離輸送）を行ふを目的とし其第一歩としてルール地方骸炭爐瓦斯の遠距離輸送を開始しルール地方、ケルン及ジーゲン一帯は既に實施中にして、最近ハノーヴァーとも供給契約を了せり、フランクフルト・オン・マイン、マインツ、ウヰースバデン等は交渉中にしてハンプルク及ベルリンへの供給は考慮中に屬しスツットガルトとの交渉は不調に終れり

(*Times. Eng. Suppl.*, Jan. 25, 1939) (新村)

ステイル式骸炭爐 獨逸 Vereinigte Stahlwerke A. G. はノルドステ
ルン炭坑にステイル式骸炭爐を建設せり、右は爐室高六米、室幅四五〇耗
一室容量二九噸にして一日骸炭化能力三六噸に及ぶ

爐室高六米の鼓炭爐に依る場合は四・〇—四・五米の場合に比し八一・五%安價に生産し得今日一、五〇〇噸の石炭處理工場の結果に依れば鼓炭

海外燃料事情

一噸當り資本額は四米の場合二・四〇マークのものが六米の場合には二・一〇マークとなり其他同一面積當り骸炭生産量は五・〇%を増加し骸炭は堅索性を増加す

(V. D.I-Nachrichten, Feb. 26, 1930) (新村)

ルール石炭市況亦更に軟調 本年頭初來多少の差こそあれルール地方全般に亘り石炭市場は不況に見舞はれ唯氣溫の低下に其好轉を期待し居るの情勢なり、二月に入り益々其の度を深めたるが之は家庭用炭に於て最も深酷にして瓦斯炭之に亞ぐ、塊炭は鐵道方面の需要ある爲稍輕きも之とて他と比較して迄の事なり、熔鑛爐用並に鑄物用炭の需要も亦製鐵業の沈滞の爲減退しつゝあり、從てルール地方の貯炭高は昨年末は六五五、〇〇〇噸にして殆ど變化を認めざりしものが本年一月に入り俄然増加し三月一日現在にて八二、〇〇〇噸となり骸炭も亦昨年十二月末の八一三、〇〇〇噸が二月一日現在一、一三三、〇〇〇噸に達し探炭制限の必要益々大となれり

(*Brenn. Chem.* **11**, 1930, 28) (田代)

(田代)

獨逸に於ける石炭鑛業概況　獨逸工業調査委員會の第三小委員會に於て「獨逸石炭鑛業」に關する調査報告を發表せり、而して其の内容は一九二八年の統計を基本として石炭及び瓦斯工業の大勢を示したるものにして、本報告に依れば瓦斯の生産費は其の全經費中石炭代其の五〇—五五%を占め勞銀一二%、燃料及動力費一五%、其他二〇%の割合に當れり、瓦斯販賣量は三、七〇〇萬立方米にして其の大部分が料理用及び點燈用に使用せられたる事勿論なり

石炭の採掘費に關しても亦興味ある結果を示し本報告書に依れば石炭礦業の利益金は一九二七年十一月ルー地方に於ては一噸當り一九ペンニツヒ、一九二八年一月上部シレジア地方に於ては一・四九マートの利益を示せり、然るに一九二八年六月下部シレジア地方に於ては一噸當り四八ペンニツヒの損失に當れり、次で褐炭工業を觀るに東部エルベ地方に於ては褐炭炭の原價は噸九五マートにして、販賣價格一二・〇九マート、中央獨

逸に於ては原價九・三七マーク、販賣價格一〇・七三マークなり、但原價中には資本利子及び諸税を含まざるを以て嚴密なる意味に於て其の工業の利益を知る能はず

ルール地方に於ける骸炭生産高は一九一三年二、一二〇萬噸なりしもの一九二八年には二、八六〇萬噸に増加し且新式骸炭爐の増設に依りて骸炭生産能力は六倍に増加せり、一九二五年五月一日より一九二八年五月に到る迄に於てラインランド、ウェストファリアのみに於ても新に建設せられたる骸炭爐は三五基に及び其の能力一、二六〇萬噸に達せり

(*Ind. Eng. Chem. News Edition*, Feb. 10, 1930. 7) (件)

英 國

第二回世界動力會議提出論文 英國々内委員は來る六月十六日より二十五日迄伯林に開催の第二回世界動力會議に提出すべき英國の論文を發表せり、總數四五にして内一六は瓦斯事業に關係あるものにして左の如し

M. Barash: The Bearing of Fluctuations in the Price of Coke and By-products on the Cost of Production of Gas.

S. Lacey: Mains and Cables in Highways.

H. C. Armstrong: Comparison between the Types of Gas Available for Use in Industrial and Metallurgical Furnaces, with Special Reference to Calorific Value and Sulphur Content.

E. W. Leask: Methods of Encouraging the Use of Gas in Industry

Sir R. Hadfield and R. J. Sarjant:

Relative Places of Gas and Electricity in Industrial Heating.

J. Wood and G. B. Howarth:

The Principles of Design, Construction, Operation

and Testing of Domestic and Industrial Gas Heating Equipment.

M. E. Rambush and F. S. Townsend:

Producer Gas Practice from the Point of view of the Carbonising Industries and the Utilisation of Low Price Fuels.

A. C. Monkhouse: The Liquor Effluents from the Gas and Coking Industries.

G. P. Pollitt: The Synthetic Ammonia Industry.

C. H. Lander: The Economic and Commercial Development of Low Temperature Carbonisation in Great Britain.

H. Hollings: The Economics of Benzol Extraction in the Gas Industry.

R. Lessing: The Economic Value of Coal Cleaning in Relation to the Problem of Dust and Sulphur Emission from Chimneys.

E. C. Evans: The Purchase and Sale of Coke to Specification.

T. P. Riley: The Extent and Nature of Control by Public Bodies with Reference to the Economic Organisation of Gas Undertakings and the Economic Relations between Consumer and Supplier.

G. H. Gater: Training of Engineers in the London County Council Scheme of Technical Education, with Special Reference to the Instruction in Generation, Transmission and Economics of Power.

F. W. Glenougl: The Training of Gas Technicians. (*Gas World*, 92, 1930, 195) (兼 載)

波 蘭

石油工業の衰微 大戦後一九二五年の八一二、〇〇〇噸を峠として次第に下廻り歩調となりたる石油産額は一九二九年には遂に前年より更に七一、〇〇〇噸の減産にて六七二、四〇〇噸となり従て精油工業亦減退を免れず、一九二八年の處理原油七二三、〇〇〇噸、精製油産額六六四、一〇〇噸は夫々六五六、〇〇〇、五九六、五〇〇噸となれるが此衰微の原因は資本調達の困難に基くものなり、採油業界の此苦況に反し國內石油取引は動力機械の取引の好調に引かれ遂年増加の傾向に在り、即一九二七年の三五七、七〇〇噸、八年度の三七三、二〇〇噸の商に對し九年度は三九七、七〇〇噸となり之を五年前の一九二四年に比すれば實に一五、一〇〇噸の増加なるが同時に輸出高之に相當する減小を示せり

(*Brenn. Chem.*, 11, 1930, 39)

(田 代)

西 牙 班

一九二九年に於ける石炭生産額 一九二九年及一九二八年に於ける西牙班の石炭等の生産額次表の如し(單位噸)

	一九二九年	一九二八年
石 炭	六、四四二、三五四	五、四六四、〇四八
無 煙 炭	五四一、二五三	四四八、六八五
褐 炭	四〇二、〇四五	四〇三、六八四
煉 炭	九四五、〇五一	五四八、一四三

(*Coal. Guard.*, 140, 1930, 653)

(石 橋)

瑞 典

スウェーデンに於ける燃料研究狀況 工業研究所に於ては大規模の實驗裝置を設置して瓦斯よりベンゼンの合成法を研究中にして純粹の水素及び一酸化炭素を原料とする場合の試験を完了し目下木炭を原料として發生せる水性瓦斯よりベンゼンの合成研究中なり

木炭より油の製出法も亦研究中にして已に工業化に必要な基礎的事項の研究を完了せり

製鐵高に於ては Skogens 木炭會社と協同して木炭の燃燒法に關する研究を行ひ H. Bergström 之を主宰せり

木炭瓦斯を自動車の燃料として使用する方法に關しては陸軍其他政府の諸關係者、自動車工業者、其他學識經驗あるものより各代表者を出し一九二九年三月協議會を開催し次で實際試験を行ひたるも現今は之を中止し自然の發達に委せり

熱の絶縁物に關する研究も亦行はれつゝありて其の研究結果は近く發表の手中なり

(*Ind. Eng. Chem., News Edition*, Feb. 10, 1930, 5) (伴)